

授業科目名	哲学	担当教員名	鈴木 祐丞
授業科目区分	教養科目－人間と社会		
履修区分	選択科目	授業形態	講義
配当年次・学期	1・2年次前期	単位数	2単位
授業の到達目標及びテーマ 「生きる意味」をめぐって哲学する。 このテーマについて、哲学者たち（おもに「実存主義」に分類される哲学者たち）の思想などを学び、教員や他の受講生と対話を行い、自分自身の考えを形作る。			
授業の概要 授業全体を通じて、教員（鈴木）が、「生きる意味」というテーマをめぐって、哲学者たちの思想などを援用したり、受講生と対話しながら、実際に哲学していく。「生きる意味」を「人間を生きることにつながる何か」と便宜的に定義した上で、まず、なぜそもそも人間は「生きる意味」を問うのか考える。次いで、「生きる意味」とはふつうどのような物事から形作られているか分析する。その上で、人間はそうした物事を失ったとしてもなお「生きる意味」を持つことができるかどうか、すなわち絶対的な「生きる意味」について考察する。最後に、「生きる意味」をめぐる思考——いわば哲学的な病気——から、人間を解放する試みをする。 受講生には、このような授業に参加することを通じて、「生きる意味」をめぐって自分自身で哲学してもらう。			
授業計画 第1回 授業についての説明／哲学とはどのような営みか／「生きる意味」を定義する 第2回 なぜ人間は「生きる意味」を問うのか（1）：猫は後悔するか／「生きる意味」の問いの源泉としての「言語」 第3回 なぜ人間は「生きる意味」を問うのか（2）：ピッカートンの言語起源論 第4回 なぜ人間は「生きる意味」を問うのか（3）：「言語」的存在としての人間 第5回 「生きる意味」を形作るもの（1）：対話——「生きる意味」と自殺・安楽死 第6回 「生きる意味」を形作るもの（2）：「幸福」 第7回 「生きる意味」を形作るもの（3）：「仕事」あるいは「他者・承認」 第8回 「生きる意味」を形作るもの（4）：「目的」「希望」 第9回 絶対的な「生きる意味」をめぐって（1）：キェルケゴールの思想——キリスト教（宗教）を信じるとはどのようなことか 第10回 絶対的な「生きる意味」をめぐって（2）：キェルケゴールの思想——信仰がもたらすものとしての絶対的な「生きる意味」 第11回 絶対的な「生きる意味」をめぐって（3）：ウィトゲンシュタインの宗教思想——責務としての生という考え 第12回 絶対的な「生きる意味」をめぐって（4）：ニーチェとサルトル——絶対的な「生きる意味」の不在 第13回 「生きる意味」の問いからの解放の試み（1）：後期ウィトゲンシュタインの、治療としての哲学 第14回 「生きる意味」の問いからの解放の試み（2）：アリストテレス「エネルゲイア」の思想 第15回 「生きる意味」の問いからの解放の試み（3）：道元（禅仏教）と「さとり」 ※受講生には授業の集大成として「生きる意味」をテーマとした期末レポートを提出してもらう予定であり、各回の授業はそのための準備の場としての位置づけを持つ。なお、その一環として、授業を通じて理解し考えたことを、授業内レポートとして数回提出してもらう予定である。			
履修上の注意 受講者数の多寡により授業の内容・形式を多少変更することがある。			
テキスト 使用しない。レジュメを配布する。			
参考書・参考資料等 適宜紹介する。			
学生に対する評価 ・平常点（授業内レポートの内容（授業内容を理解した上で、自分の考えを展開できているか）、対話への貢献度、受講態度など） 70% ・期末レポート 30%			

授業科目名	法学（日本国憲法）	担当教員名	棟久 敬
授業科目区分	教養科目－人間と社会		
履修区分	選択科目	授業形態	講義（集中）
配当年次・学期	1・2年次前期	単位数	2単位
授業の到達目標及びテーマ： 日本国憲法を中心とした現代法の基礎的理解。 ・到達目標：①憲法上の基本的な諸概念を説明できる。 ②日本国憲法の基本的な条文の解釈を説明できる。 ③日本国憲法の基本的な条文の解釈を説明できる。 ④社会で生じている問題についての的確に理解し、自分の力で考えることができる。			
授業の概要 近代以降、憲法の最も重要な理念とされてきた立憲主義とは何なのか、現代ではどう理解されているのか、立憲主義に基づいて基本的人権や統治機構の仕組みに関する日本国憲法の各条文はどのように解釈されるべきであるか、また裁判所はどのように解釈しているのかについて、入門および一般教養としての解説を行う。			
授業計画 第1回：講義の目標・構成 第2回：憲法とはどのような法か？ 第3回：基本的人権はどのようにして生まれた？ 第4回：人権はだれのもの？ 第5回：個人の尊重・幸福追求権 第6回：平等とは？家族とは？ 第7回：人身の自由と適正手続の保障 第8回：心の中の自由 第9回：表現の自由 第10回：教育を受ける権利と学校、学問の自由 第11回：経済活動の自由と社会権 第12回：国民主権と選挙の仕組み 第13回：国の統治の仕組み(1)国会と内閣 第14回：国の統治の仕組み(2)裁判所 第15回：地方政治のルールと仕組み （期末試験）			
履修上の注意 最も小型のものでよいから、「六法」を用意することが望ましい。			
テキスト 初宿正典ほか『目で見る憲法〔第5版〕』（有斐閣）1600円（税別） 『法学六法'18』（信山社）1000円（税別）			
参考書・参考資料等 授業で適宜指示する。			
学生に対する評価 期末試験の結果（80％）と学習態度（20％）によって評価し、総合60％以上を合格とする。			

授業科目名	科学と人間	担当教員名	石井 照久
授業科目区分	教養科目－人間と社会		
履修区分	選択科目	授業形態	講義
配当年次・学期	1・2年次前期	単位数	2単位
授業の到達目標及びテーマ 1、人間のルーツを説明できる。 2、人間の生命の営み方を説明できる。 3、最新の科学ニュースについて批判的に考えることができる。 4、科学技術の功罪を説明できる。 5、これからのライフスタイルについて考察できる。			
授業の概要 将来にわたって自分自身で学び続け・考え続けることができる能力、および問題を解決することができる能力、の基盤となる科学分野の素養をこの講義で身につける。まず人間の特性を解説し、次に人類がいかに地球上で科学技術を駆使して文明を切り開いてきたかを概説する。そして科学技術がもたらした負の面（地球温暖化や異常気象、放射線汚染、化学物質汚染、遺伝子組換え問題、生命倫理問題など）を概説する。さらに、最新の科学ニュースを取り上げながら、新しいライフスタイルを模索できる力を培う。			
授業計画 毎回の授業の開始時に科学ニュースを取り上げ概説する 第1回 ガイダンスとアリストテレス 第2回 プロローグ1：霊魂説について 第3回 プロローグ2：霊魂はあるのか？ 第4回 ミクロの世界：顕微鏡の発明 第5回 人間はどこからきたか 1) 生き物のルーツ 第6回 2) 現代人のルーツ 第7回 3) 日本人のルーツ 第8回 人間の生き方 1) 飲み食べる・消化する・エネルギーをつくる 第9回 2) 消化したものから自分の体をつくる（DNA,RNA,タンパク） 第10回 3) 健康体とは 4) 病気とは 第11回 5) ヒトは社会のなかで生きる動物である －自己表現・認められたい－ 第12回 人間生活と科学技術 1) 地球の内部と表面（地球温暖化、異常気象） 第13回 2) 科学技術の功罪（医療・生命倫理、遺伝子組換え、化学物質汚染） 第14回（エネルギー、放射線、通信、表現、交通など） 第15回 これからのライフスタイルは？ 第16回 定期試験 *内容が多少変更になることがある。			
履修上の注意 本授業ではタバコの害に多々触れます。タバコの害を言われて嫌な者は受講を避けて下さい。			
テキスト 教科書は使用しない 必要に応じてプリントを配付する			
参考書・参考資料等 授業中に紹介する			
学生に対する評価 毎回出欠をとる。授業中に行う小テスト等の合計点を50点満点とし、第16回目に行う定期試験の得点を50点満点とし、それらの合計100点満点のうち、60点以上を合格とする。追試は行わない。定期試験は持ち込みなしで実施する。			

授業科目名	日本文学	担当教員名	高橋 秀晴
授業科目区分	教養科目－人間と社会		
履修区分	選択科目	授業形態	講義
配当年次・学期	1・2年次後期	単位数	2単位
授業の到達目標及びテーマ 明治・大正・昭和の日本文化の軌跡を、文学作品に現れた作家の問題意識を通して捉える。その作業により、人生の普遍的意味について考察することを目指す。なお、具体的到達点としては、以下の3点を想定している。 (1) 日本近代文学の基本的方向性について理解できる。 (2) 小説の読み方に関する基本的理論を理解できる。 (3) 出版人・編集者の機能について説明できる。			
授業の概要 本講義では、日本文学の基礎知識を学ぶ。日本語による文学作品を通じて、創作上の幅を広げられるような知識や体験を獲得することを目標とする。その際、日本の代表的で実験性に富んだユニークな文学作品を取り上げて解説するとともに、論理的かつ想像的思考を養うために、批評理論や物語論などの関連する文学理論も紹介する。			
授業計画 第1回 文学という芸術形式の特徴、及び教科書、講義形態、評価について説明する。 第2回 日本近代文学の流れを概説する。 第3回 出版人佐藤義亮の人となりと出版観について説明する。 第4回 義亮の秋田時代及びその意義について考察する。 第5回 新声社創立の背景について解説する。 第6回 雑誌『新声』とその時代との関係性について分析する。 第7回 新声社の書籍出版進出の経緯について説明する。 第8回 新声社の譲渡をめぐる事情について考察する。 第9回 新潮社創立の背景について解説する。 第10回 義亮と国木田独歩との関わりについて解説する。 第11回 「新潮文庫」刊行の意義について考察する。 第12回 義亮の新人発掘の特徴について考察する。 第13回 義亮と有島武郎との関わりについて解説する。 第14回 義亮・新潮社と「円本ブーム」について解説する。 第15回 全体を振り返りつつ、佐藤義亮・新潮社という観点から日本の近代文学史を展望する。 (定期試験)			
履修上の注意 ○講義外の幅広い読書・思索活動を強く期待する。			
テキスト ○高橋秀晴 『出版の魂／新潮社をつくった男・佐藤義亮』 牧野出版 1,995円			
参考書・参考資料等 ○開講時に指示する。			
学生に対する評価 ○試験に授業への姿勢を加味し、総合的に判断する。試験90%、授業態度10%			

授業科目名	心理学	担当教員名	宮野 素子
授業科目区分	教養科目－人間と社会		
履修区分	選択科目	授業形態	講義
配当年次・学期	1・2年次前期	単位数	2単位
授業の到達目標及びテーマ 心理学の各領域の基礎的な理論や用語を理解し、日常生活の中での人の行動あるいは自分自身の行動や経験について、心理学的な観点から見られるようになることを目標とします。			
授業の概要 この講義では心理学がどのような切り口で世界を捉えているのか、その観点と先行研究を紹介することを目的とし、心理学の領域を、心理学小史、心の生理的基盤、感覚・知覚、学習、記憶、感情、人格、発達、社会など、横断的に紹介します。その際、なるべく日々の生活に活かせるような事例を選んで、テーマにちなんだ映像等資料等も適宜使用していきたいと思えます。			
授業計画 第1回 オリエンテーション、心理学ってどんな学問？ ……心理学小史 第2回 人は物をどう見ているか？ ……感覚と知覚の心理学 第3回 人は他者をどう見ているか？ ……対人認知の心理学 第4回 どのようにして他者を好きになるのか？ ……対人魅力 第5回 「私」の成り立ち ……自己認知の発達 第6回 人はどのように記憶するのか？ ……記憶の心理学 第7回 人はどのように考えるのか ……問題解決の心理学 第8回 他者に自分を見せる1 自己開示 第9回 他者に自分を見せる2 自己呈示 第10回 自分や他者の性格を知る 性格心理学 第11回 人を説得し、説得される1 ……説得コミュニケーション 第12回 こころの深層にふれる…夢分析入門 第13回 ストレスに対処する ストレスの心理学 第14回 こころの問題を解決する1 ……精神分析療法・来談者中心療法 第15回 こころの問題を解決する2 ……行動療法 (定期試験)			
履修上の注意 特にありません。			
テキスト 授業中にレジュメ、資料等のプリントを適宜配布します。			
参考書・参考資料等 授業の中で適宜紹介します。			
学生に対する評価 試験(70%)と授業への積極性(30%)で評価します。			

授業科目名	国際関係論	担当教員名	水野 智仁
授業科目区分	教養科目－人間と社会		
履修区分	選択科目	授業形態	講義
配当年次・学期	2・3年次前期	単位数	2単位
授業の到達目標及びテーマ 本講の目的は、我が国と東アジア近隣との歴史的関係を大まかに把握したうえで、今日の我が国を取り巻く東アジアの国際情勢及び諸問題について理解を深めたい。			
授業の概要 我が国と東アジア近隣諸国（中国、南北朝鮮）との関係は昨今良好とはいえぬ状況にあるが、彼我に介在する諸問題を考えるうえにおいて、過去の経緯というものを無視することはできない。そこで本講では、まず日中、日朝(韓)関係の歴史を概観したうえで、1990年代初頭から今日に至るまでの我が国と近隣諸国との関係のさまざまな側面について考察していきたい。			
授業計画 第1回 今日の東アジア世界 第2回 東アジア世界の伝統秩序と日本 第3回 近代日本の勃興と東アジア世界の変容 第4回 東アジアのなかの“帝国”日本 第4回 日中衝突(1)：満州事変への道 第5回 日中衝突(2)：日中戦争 第7回 冷戦期の日本と東アジア近隣諸国 第8回 “冷戦終結”後の日本と東アジア近隣諸国 第9回 歴史認識問題(1)：歴史教科諸問題 第10回 歴史認識問題(2)：靖国神社参拝問題 第11回 慰安婦問題と日韓関係 第12回 領土問題 第13回 中国の台頭と東アジア 第14回 東アジアにおける核拡散問題 第15回 日本と東アジア 最終回 定期試験：筆記試験を実施予定			
履修上の注意 日頃から、我が国の近隣諸国との関係に関する報道等に注意を払って欲しい。			
テキスト 適宜、複写したものを教材として配布する。			
参考書・参考資料等 川島真編『東アジア国際政治史』（名古屋大学出版会、2007年）			
学生に対する評価 授業への出席・参加（40％）と期末筆記試験の成績（60％）をもって評価する。			

授業科目名	環境と生態	担当教員名	蒔田 明史、片野 登
授業科目区分	教養科目－人間と社会		
履修区分	選択科目	授業形態	講義（オムニバス）
配当年次・学期	2・3年次前期	単位数	2単位
授業の到達目標及びテーマ			
<p>私たちの生活は私たちをとりまく様々な生き物たちの作り上げる自然を基盤に成り立っている。本講義では、自然の成り立ち、人類が自然に与えてきた影響、さらには、私たちが自然からどのような恩恵を受けているかを考える。</p> <p>それらをもとに、自然と人間との関係のあり方について考えられるようになって欲しい。</p>			
授業の概要			
<p>人類の生命と生活は、我々を取り巻く多様な自然環境と、我々と共に生きている多くの生物の営みに支えられている。だから持続可能な社会を築いていくためにも、自然に関する理解は必要不可欠である。そこで、本講義では、まず、日本の自然の特徴を概観した後、森林環境や水環境などを素材として自然の成り立ちや生物の生活史特性・生物間相互作用など生態学の基礎を解説し、自然を”観る”ための素養を養っていく。その上で、人間が環境にどのような影響を与え、現在環境改善にどのように取り組んでいるかを学び、今後人類が自然とどのような関係性を築いていけばいいかを考えていく。</p>			
授業計画			
第 1 回 イントロダクション：生物学とは？生態学とは？“自然を観る”ってどんなこと？（担当蒔田）			
第 2 回 環境の観点からの世界史・・・イースター島の歴史の語ること（蒔田）			
第 3 回 秋田の森林を歩く・・・日本の自然；秋田の自然の特徴は？（蒔田）			
第 4 回 花はなぜ美しい？・・・目立つ花 vs 目立たない花（蒔田）			
第 5 回 多様で気長な森の世界・・・ブナとササとネズミの微妙な関係（蒔田）			
第 6 回 DNA で自然を探る・・・見えない構造を観る！（蒔田）			
第 7 回 自然はなぜ大切か・・・天然記念物にみる自然の重要性（蒔田）			
第 8 回 地球環境問題①・・・地球温暖化、オゾン層の破壊（片野）			
第 9 回 自然はつながっている・・・大気と水の循環について（片野）			
第 10 回 地球環境問題②・・・森林の喪失、砂漠化（片野）			
第 11 回 秋田の気候と風土について（片野）			
第 12 回 秋田の水環境 1：田沢湖の水質改善（片野）			
第 13 回 秋田の水環境 2：十和田湖の水質と生態系（片野）			
第 14 回 秋田の水環境 3：八郎湖の水質汚濁について（片野）			
第 15 回 秋田の水環境 4：秋田県 47 年の水質の変化（片野）			
（定期試験）			
履修上の注意			
問題意識をもって、講義に取り組み、積極的に発言して欲しい			
テキスト			
適宜プリントを配布し、参考図書を提示する。			
参考書・参考資料等			
「緑の世界史 上・下」C・ポンティング（朝日選書）；「秋田の森林を歩く」蒔田明史（無明舎出版）；「日本の水環境 2 東北編」日本水環境学会編（技報堂）			
学生に対する評価			
受講態度（講義時間中の小テスト・小レポートを含む）10%：定期試験 90%			

授業科目名	文芸特論	担当教員名	大八木 敦彦
授業科目区分	教養科目－人間と社会		
履修区分	選択科目	授業形態	講義
配当年次・学期	2・3年次後期	単位数	2単位
授業の到達目標及びテーマ			
<p>文芸作品の鑑賞をおこないながら、言語表現について論じ、美術や音楽における創造活動と複合した、総合的な芸術表現の可能性を探る。</p>			
授業の概要			
<p>詩、小説、戯曲、批評等、さまざまなジャンルの作品を鑑賞して、文芸への理解を深めながら、芸術活動における言語表現の実際について論じる。</p>			
授業計画			
第1回	言葉の世界（1）		
第2回	言葉の世界（2）		
第3回	詩歌（1）		
第4回	詩歌（2）		
第5回	詩歌（3）		
第6回	小説とファンタジー（1）		
第7回	小説とファンタジー（2）		
第8回	小説とファンタジー（3）		
第9回	戯曲		
第10回	批評		
第11回	現代における文芸の意義（1）		
第12回	現代における文芸の意義（2）		
第13回	文芸の様々なスタイル		
第14回	言語表現の可能性と未来（1）		
第15回	言語表現の可能性と未来（2）		
履修上の注意			
<p>毎回、文芸作品を相当量読みこなして、創作の課題も多数提出する必要がある。</p>			
テキスト			
<p>プリントを配布する予定</p>			
参考書・参考資料等			
<p>授業の際に適宜指示する。</p>			
学生に対する評価			
<p>授業態度（50%）、レポート等提出物（50%）で総合的に評価する。</p>			

授業科目名	日本史	担当教員名	渡辺 英夫
授業科目区分	教養科目－歴史と文化		
履修区分	選択科目	授業形態	講義
配当年次・学期	1・2年次前期	単位数	2単位
授業の到達目標及びテーマ 日本の歴史がアジアの歴史および世界の歴史と密接に関連しつつ展開したことを理解する。テーマは世界の中の日本で、封建制から近代資本主義社会の展開に主眼を置く。			
授業の概要 原始・古代から近現代に至る日本の歴史を概説する。日本の朝廷は中国から律令制を学びつつ中国を中心とする冊封体制から抜け出し、国の体制を固めていった。それは同時に日本国内に中央と辺境、東夷の概念を持ち込むことだった。武家の政権も絶えず中国の影響を受けるなか西南日本の人びとは積極的に海に乗り出した。その倭寇の活動は中国の海禁政策への対抗であり、根底には中華思想に基づく東アジアの冊封体制があった。そうした情勢にあって徳川幕府は将軍を頂点とする独自の対外関係を構築し日本型の華夷秩序を再構成する。欧米資本主義列強は外圧を以て幕藩体制を崩壊へと導き、明治国家は帝国主義列強へ仲間入りしたが、それを支えたのが大東亜共栄圏の考えであり、それは日本型の華夷秩序に他ならなかった。講義はアジアの中での日本、世界との関係を注意しつつ、それぞれの歴史過程における東北地方、秋田の問題を考察できるよう指導する。			
授業計画 第1回 ヤマト政権の成立 第2回 律令制国家と辺境 第3回 荘園と武士、摂関政治から院政へ 第4回 仏教と日本社会 第5回 武家政権と在地領主制 第6回 明の海禁政策と倭寇 第7回 戦国から統一へ 第8回 近世の対外関係と市場構造 第9回 幕藩制国家 第10回 資本主義の萌芽 第11回 明治維新 第12回 条約改正と帝国主義の戦争 第13回 政党政治と経済恐慌 第14回 アジア太平洋戦争 第15回 国際社会への復帰と沖縄 第16回 定期試験			
履修上の注意 高校で日本史を勉強しなかった人でも是非受講して下さい。			
テキスト 特に指定しない。必要に応じて資料を配付する。			
参考書・参考資料等 『日本史辞典』角川書店 3,400円			
学生に対する評価 論述形式の試験をおこないます。授業への姿勢(20%)、試験(80%)で評価します。			

授業科目名	東北生活文化論	担当教員名	石倉 敏明
授業科目区分	教養科目—歴史と文化		
履修区分	選択科目	授業形態	講義
配当年次・学期	1・2年次前期	単位数	2単位
授業の到達目標及びテーマ			
<p>本講義では秋田を中心に、東北地域全般の特色ある生活文化を考察の対象とする。縄文時代から現在に至るその生活文化史を概観すると共に、特に秋田地域で育まれてきた生活様式や経済活動、祭礼、行事、芸術、思想について、周辺地域の特色とも比較しながら考察する。</p>			
授業の概要			
<p>この授業では人類学をはじめ考古学、民俗学、神話学、生態学などの横断的な見地から東北地方の実態を見つめ、地域文化の独自性をさまざまな角度から検証する。また、この地域の里山・里海・里川での生活文化を、日本列島を越えて東アジアや環太平洋の文化的なつながりの中に位置づけ、人類の普遍性の中で地域社会の文化的なルーツについて解説する。</p>			
授業計画			
第1回～2回	世界のなかの「東北」	環太平洋における縄文文化	
第3回～4回	源流としての狩猟採集生活	ブナ帯の生態、狩猟採集文化について	
第5回～6回	神仏和合の山々	出羽三山と鳥海山他、山々の神話学	
第7回～8回	死と再生の森	曼荼羅と母胎、ウバサマ信仰・ハヤマ信仰の広がり	
第9回	里山／里川／里海	身近な自然との関わり、鮭と熊の神話	
第10回	東北的アニミズム	草木供養塔と本覚思想	
第11回～12回	神話・芸能・伝承	だんぶり長者伝説と大日堂舞楽	
第12回～13回	来訪する精霊	ナマハゲからサンタクロースまで	
第14回	鎮魂と創造	3.11 以後の東北像	
第15回	「東北」から始まる未来	魂の東北に向けて	
(定期試験)			
履修上の注意			
<p>配布資料のほか、適宜映像資料を使用します。なお、新しい研究成果を授業に反映させるため、各回の内容や順番を変更することがあります。</p>			
テキスト			
<p>各回のテキストは適宜配布します。</p>			
参考書・参考資料等			
<p>岩崎敏夫『東北民間信仰の研究』、中沢新一『哲学の東北』、千歳栄『山の形をした魂』、田附勝『東北』、山内明美『子ども東北学』、石倉敏明・田附勝『野生めぐり』等。</p>			
学生に対する評価			
<p>授業への取り組み 30% 課題の成果（試験、レポート） 70%</p>			

授業科目名	東北造形史	担当教員名	澤田 享、井上 豪、志邨 匠子
授業科目区分	教養科目－歴史と文化		
履修区分	必修科目	授業形態	講義（オムニバス方式）
配当年次・学期	1年次後期	単位数	2単位
授業の到達目標及びテーマ 本学が立地する東北地方には、先人達がこの地に生き育んできた東北ならではの文化が息づいている。それは建築、絵画、彫刻などに特徴的な造形となって表われ、東北の風土を更に豊かにしてきた。本授業では、それらの一端に触れ、その内容や意義について充分理解することである。 ・テーマ 東北地方の国宝建築、秋田の近代建築 東北地方の彫刻史 東北地方の絵画史			
授業の概要 この授業では、古代から近代に至る東北の文化遺産を通して先人の心に触れ、伝統的造形美の豊かな土壌について理解を深めていくと共に、本学の造形活動の基礎となる知識を教授する。			
授業計画 第1回 中尊寺金色堂の建築と芸術的価値（古代、岩手県） 第2回 大崎八幡神社の建築とその装飾（近世、宮城県） 第3回 ロシア ハリストス正教と北鹿ハリストス教会聖堂の建築（近代、秋田県） 第4回 国名勝『池田氏庭園』内の洋館建築（近代、秋田県） 第5回 まとめ 第6回 序論：白鳳・天平の仏教美術と東北の仏像（秋田・正伝寺観音菩薩像、源勝寺観音菩薩像ほか） 第7回 古代：平安期東北の彫刻（岩手県・黒石寺薬師如来像、山形県・寶積院十一面観音像ほか） 第8回 中世：鉦彫像の展開（岩手県・藤里毘沙門堂兜跋毘沙門天像、秋田県・小沼観音像ほか） 第9回 近世：円空仏の世界（秋田県・五社堂十一面観音像、青森県・圓通寺十一面観音像ほか） 第10回 まとめ 第11回 江戸の洋風表現と秋田蘭画～近代東北絵画の先進性と地方性 第12回 秋田の画人たち（平福百穂，寺崎広業，福田豊四郎） 第13回 棟方志功と萬鉄五郎～東北出身画家の「伝統」と「近代」 第14回 藤田嗣治と岡本太郎の東北 第15回 まとめ			
履修上の注意 配布されたプリントは綴じて持参すること。			
テキスト プリント等を配布する。			
参考書・参考資料等			
学生に対する評価 各まとめ時に教場レポートを作成、提出にて評価し、100点満点で60点以上を単位認定とする。			

授業科目名	素材と表現・デザイン	担当教員名	今中 隆介、小牟禮 尊人、安藤 康裕、山岡 惇、熊谷 晃、瀬沼 健太郎、安藤 郁子、森 香織、
授業科目区分	教養科目—歴史と文化		
履修区分	選択必修科目	授業形態	講義（オムニバス）
配当年次・学期	2年次後期	単位数	2単位
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>多様な素材による技術や表現を理解し、美術表現への共感や共有を得る礎とする。また、それらによって生み出された物や、その背景と役割について理解を深める。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>生活空間を彩る様々な素材の材料特質と加工方法（ガラス、金属、木、漆、染色、陶芸、プロダクトデザイン素材）と、歴史的背景などについて解説する。また、各素材で作られた生活財やアート作品、ものづくりの事例などを紹介し、素材と表現とデザインの関係性を考察する。</p>			
<p>授業計画 （オムニバス形式）</p> <p>第1回 ガラスの特質や技法等について（小牟禮 尊人・瀬沼 健太郎） 第2回 ガラスの表現について 第3回 ガラス作品やものづくりの事例紹介 第4回 金属の特質や技法、表現について（安藤 康裕） 第5回 金工作品やものづくりの事例紹介 第6回 木材の特質や技法、表現について（山岡 惇） 第7回 木工作品やものづくりの事例紹介 第8回 漆の特質や技法、表現について（熊谷 晃） 第9回 漆作品やものづくりの事例紹介 第10回 染色の特質や技法、表現について（森 香織） 第11回 染色作品やものづくりの事例紹介 第12回 陶芸の特質や技法、表現について（安藤 郁子） 第13回 陶芸作品やものづくりの事例紹介 第14回 プロダクトデザイン素材の特質や加工方法について（今中 隆介） 第15回 プロダクトデザイン製品やものづくりの事例紹介</p>			
履修上の注意			
テキスト 必要に応じて適宜配布			
参考書・参考資料等 必要に応じて適宜配布			
学生に対する評価 授業への取り組み（20%）、レポート（80%）			

授業科目名	文化人類学	担当教員名	石倉 敏明
授業科目区分	教養科目一歴史と文化		
履修区分	必修科目	授業形態	講義
配当年次・学期	2年次後期	単位数	2単位
授業の到達目標及びテーマ 人類学は地球上のさまざまな民族文化に学び、人類の心の普遍性を核とするユニークで多様な表現を理解する方法である。本講義では、諸々の文化の根源にある神話や祭り、経済活動や労働、エコロジーや時間／空間認識といった問題を通してこの方法を深め、日本列島の思想表現と世界の文化を統一的に理解するための考察力を養う。			
授業の概要 本講義では、近年日本をはじめ各国で発達を遂げた「芸術人類学」の知見をもとに、異なる習慣や文化をもつ人びとの間にどのような共通性が存在するかという問題を、人類の心の普遍性という視点から探究する。ここでは特に「対称性」概念に着目し、贈与と交換、生産と消費、労働と遊びなど、異なる原理の組み合わせによって構築される「複論理 bi-logic」のダイナミズムについて学ぶ。			
授業計画 第1回～3回 芸術人類学入門 旧石器時代の芸術と世界認識／脳科学に見る宗教と芸術の交錯／人間と動物の関係 第4回～6回 神話と表現 循環する時空間の表現／音楽と神話／食べ物の起源／住まいと宇宙論／アフリカの映像人類学／エコロジーとしての神話学 第7回～10回 贈与と共有 贈与と交換／エネルギーの存在論／芸術・労働・遊び／民藝と生活工芸 第11回～13回 今日の神話学 観点主義と多自然論／制度外の芸術について／変換と反転／過去と未来をつなぐ営み 第14回～15回 再獲得された世界 芸術制作と生活世界／芸術の神話体系／森はいかに思考するか？／「対称性」の再構築へ (定期試験)			
履修上の注意 配布資料のほか、適宜映像資料を使用します。なお、新しい研究成果を授業に反映させるため、各回の内容や順番を変更することがあります。			
テキスト 各回のテキストは適宜配布します。			
参考書・参考資料等 石倉敏明・田附勝『野生めぐり』、中沢新一『カイエ・ソバージュ』(全五巻)、奥野他編『人と動物の人類学』、C.レヴィ＝ストロース『野生の思考』、パット・シップマン『アニマル・コネクション』、マルセル・モース『贈与論』など。			
学生に対する評価 授業への取り組み 30% 課題の成果(試験・レポート) 70%			

授業科目名	文化人類学特論	担当教員名	石倉 敏明
授業科目区分	教養科目—歴史と文化		
履修区分	選択科目	授業形態	講義（一部演習・実習）
配当年次・学期	3・4年次前期	単位数	2単位
授業の到達目標及びテーマ			
<p>この授業では現代の人文諸科学の成果を参照しながら、生命を懐胎し、出産し、育むものであり、また死をもたらす恐ろしいものとしても表象される女性や母性についての神話的イメージを探る。人類の想像力や創造性と女性性一般の関係を考察することによって、「人間が生まれること」の意義やその芸術表象の歴史を探究し、生態系と人間、古代的なものと未来的なものを繋ぐ思考力や表現力を養う。</p>			
授業の概要			
<p>本講義では主に女性性を探究の主題としながら、神話研究を通して、人びとの生活にとって欠かすことのできない自然との関わりについて探究する。動物や植物といった非人間の生物、山や海といった自然景観、木材や毛皮といった材料、「山の神」等の聖性表現に着目し、その根源にある産出力と破壊力、創造性と否定性を理解する。また、日本列島の民話や伝承のなかで生き続ける「贈与する自然」のイメージを、より深く理解することを目指す。</p>			
授業計画			
第1回～2回	懐胎すること、生まれること ～「贈与」の根源性		
第3回～4回	エロティシズムについて ～他者の受け入れと二重の生命		
第5回～6回	母子間の潜在空間 ～ ウィニコット、メルツァーの研究から		
第7回～8回	母子神の世界的展開 ～「桃太郎の母」の環太平洋的広がり		
第9回～10回	「包み」と「結び」 ～デザイン化された産出性		
第11回～12回	芸術・贈与・貨幣 ～「価値を生み出すもの」としての芸術		
第13回～14回	「他者を食べる」／「他者を産む」 ～宇宙的食物連鎖について		
第15回	まとめ ～「内なる野生」への通路を拓く		
(定期試験)			
履修上の注意			
新しい研究成果を授業に反映させるため、各回の内容や順番を変更することがあります。			
テキスト			
各回のテキストは適宜配布します。			
参考書・参考資料等			
ネリー・ナウマン『山の神』、中沢新一『カイエ・ソバージュ』『精霊の王』、石倉敏明他『折形デザイン 研究所の新・包結図説』、マーク・シエル『芸術と貨幣』、ベルティンク『イメージ人類学』他。			
学生に対する評価			
授業への取り組み 30% 課題の成果（試験、レポート） 70%			

授業科目名	異文化コミュニケーション論	担当教員名	浜田 英紀
授業科目区分	教養科目－歴史と文化		
履修区分	選択科目	授業形態	講義および演習
配当年次・学期	3・4年次前期	単位数	2単位
授業の到達目標及びテーマ			
<p>本講義では、多文化主義（マルチカルチュラリズム）に基盤をおいて、それが人間の認知過程、社会生活、対人関係、行動規範、社会集団のあり方などに、どのような影響を与えるのか、及び文化の多様性をいかして効果的なコミュニケーションを行うには何が必要かという問題等を各自が自身の異文化接触場面と関連づけながら考えられるようになることを目的とする。</p>			
授業の概要			
<p>上記の問題についての背景となる理論や分析を学ぶと共に、それがいかに自分の生活と関連づけられるかを考え、現状の課題と実践的対応の仕方など、文化の多様性の中での効果的なコミュニケーションを学ぶ。授業ではグループ討論や演習形式のシミュレーションなども多く取り入れる。</p>			
授業計画			
<p>第1回 コース紹介 第2回 文化とは コミュニケーションとは 第3回 コミュニケーションスタイル 第4回 言語コミュニケーション 第5回 言語コミュニケーション 第6回 非言語コミュニケーション 第7回 非言語コミュニケーション 第8回 異文化シミュレーション(可能であれば学外) 第9回 文化的価値観 第10回 文化的価値観 第11回 最終発表リサーチ 第12回 異文化適応 第13回 異文化適応 第14回 発表 第15回 まとめ</p>			
履修上の注意			
<p>授業では多くのディスカッションを行う。積極的取り組みを望む。</p>			
テキスト			
<p>八代京子ほか 異文化コミュニケーションワークブック（2001） 三修社 （¥3,024）</p>			
参考書・参考資料等			
<p>必要に応じて授業時に紹介</p>			
学生に対する評価			
<p>授業態度及び授業への貢献度 30%、宿題・リフレクションペーパー30%、最終発表とレポート 40%</p>			

授業科目名	英語総合講座 1	担当教員名	大八木 敦彦
授業科目区分	教養科目－外国語		
履修区分	選択必修科目	授業形態	講義
配当年次・学期	1 年次前期	単位数	2 単位
授業の到達目標及びテーマ The purpose of this class is to provide students with basic, general English knowledge and a foundation for further studies in English language.			
授業の概要 The main focus will be on improving students' four skills of basic-level English through watching the famous American movies.			
授業計画 第 1 回 SCENE 1 Paramount News brings you ~ Vocabulary, Viewing with the Script 第 2 回 " ~Comprehension Check, Vocabulary Exercise, Translation 第 3 回 SCENE 2 I hate this night gown ~ Vocabulary, Viewing with the Script 第 4 回 " ~Comprehension Check, Vocabulary Exercise, Translation 第 5 回 SCENE 3 She's asleep ~ Vocabulary, Viewing with the Script 第 6 回 " ~Comprehension Check, Vocabulary Exercise, Translation 第 7 回 SCENE 4 Bet five hundred. ~ Vocabulary, Viewing with the Script 第 8 回 " ~Comprehension Check, Vocabulary Exercise, Translation 第 9 回 SCENE 5 So... happy ...How are you ~ Vocabulary, Viewing with the Script 第 10 回 " ~Comprehension Check, Vocabulary Exercise, Translation 第 11 回 SCENE 6 Where're we going? ~ Vocabulary, Viewing with the Script 第 12 回 " ~Comprehension Check, Vocabulary Exercise, Translation 第 13 回 SCENE 7 Is this the elevator? ~ Vocabulary, Viewing with the Script 第 14 回 " ~Comprehension Check, Vocabulary Exercise, Translation 第 15 回 Review and Consolidation			
履修上の注意 Students should preview the appropriate part in the textbook and be prepared to answer questions in class.			
テキスト Roman Holiday ETM Method (南雲堂) ¥2500 (税抜)			
参考書・参考資料等 English-Japanese Dictionary			
学生に対する評価 Participation in class (60%) Semester-end Test (40%)			

授業科目名	英語総合講座 2	担当教員名	大八木 敦彦
授業科目区分	教養科目－外国語		
履修区分	選択必修科目	授業形態	講義
配当年次・学期	1 年次後期	単位数	2 単位
授業の到達目標及びテーマ The purpose of this class is to provide students with intermediate, specialized English knowledge and a foundation for further studies in English language.			
授業の概要 The main focus will be on improving students' four skills of intermediate-level English through watching the famous American movies.			
授業計画 第 1 回 SCENE 8 Oh, holy smoke ~ Vocabulary, Viewing with the Script, 'Halloween' 第 2 回 " ~Comprehension Check, Vocabulary Exercise, Translation, 'Vigil' 第 3 回 SCENE 9 Now listen carefully ~ Vocabulary, Viewing with the Script, 'Vigil' 第 4 回 " ~Comprehension Check, Vocabulary Exercise, Translation, 'Vigil' 第 5 回 SCENE 10 She's asleep ~ Vocabulary, Viewing with the Script, 'Christmas' 第 6 回 " ~Comprehension Check, Vocabulary Exercise, Translation 第 7 回 SCENE 11 Swell! Thanks a lot! ~ Vocabulary, Viewing with the Script 第 8 回 " ~Comprehension Check, Vocabulary Exercise, Translation, 'Christmas' 第 9 回 SCENE 12 Just cut, thank you ~ Vocabulary, Viewing with the Script 第 10 回 " ~Comprehension Check, Vocabulary Exercise, Translation, 'Christmas' 第 11 回 SCENE 13 Well, it's you! ~ Vocabulary, Viewing with the Script, 'Christmas' 第 12 回 " ~Comprehension Check, Vocabulary Exercise, Translation 第 13 回 SCENE 14 What will the people at ~ Vocabulary, Viewing with the Script 第 14 回 " ~Comprehension Check, Vocabulary Exercise, Translation 第 15 回 Review and Consolidation			
履修上の注意 Students should preview the appropriate part in the textbook and be prepared to answer questions in class.			
テキスト Roman Holiday ETM Method (南雲堂) ¥2500 (税抜)			
参考書・参考資料等 English-Japanese Dictionary			
学生に対する評価 Participation in class (60%) Semester-end Test (40%)			

授業科目名	英語総合講座3	担当教員名	大八木 敦彦
授業科目区分	教養科目－外国語		
履修区分	選択科目	授業形態	講義
配当年次・学期	2・3年次前期	単位数	2単位
授業の到達目標及びテーマ The purpose of this class is to provide students with advanced, exclusive English knowledge and a foundation for further studies in English language.			
授業の概要 The main focus will be on improving students' four skills of advanced-level English through watching the famous American movies.			
授業計画 第1回 SCENE 15 Joe, just...now, wait ~ Vocabulary, Viewing with the Script 第2回 " ~Comprehension Check, Vocabulary Exercise, Translation 第3回 SCENE 16 Look at those men! ~ Vocabulary, Viewing with the Script 第4回 " ~Comprehension Check, Vocabulary Exercise, Translation 第5回 SCENE 17 I'll park at the corner ~ Vocabulary, Viewing with the Script 第6回 " ~Comprehension Check, Vocabulary Exercise, Translation 第7回 SCENE 18 This is the American Hour ~ Vocabulary, Viewing with the Script 第8回 " ~Comprehension Check, Vocabulary Exercise, Translation 第9回 SCENE 19 Joe, is it true? ~ Vocabulary, Viewing with the Script 第10回 " ~Comprehension Check, Vocabulary Exercise, Translation 第11回 SCENE 20 It ain't much ~ Vocabulary, Viewing with the Script 第12回 " ~Comprehension Check, Vocabulary Exercise, Translation 第13回 SCENE from Breakfast at Tiffany's and other movies 第14回 SCENE from My fair Lady and other movies 第15回 Review and Consolidation			
履修上の注意 Students should preview the appropriate part in the textbook and be prepared to answer questions in class.			
テキスト Roman Holiday ETM Method (南雲堂) ¥2500 (税抜)			
参考書・参考資料等 English-Japanese Dictionary			
学生に対する評価 Participation in class (60%) Semester-end Test (40%)			

授業科目名	英会話A	担当教員名	Randy Kay Checketts
授業科目区分	教養科目－外国語		
履修区分	選択科目	授業形態	演習
配当年次・学期	1・2年次前期	単位数	2単位
授業の到達目標及びテーマ Encouraging students to use English with confidence is the primary goal. Students will have practice each week with listening, writing, memorizing and the giving of presentations. Students are required to take their own notes, since a textbook will not be used. In the 1st semester, numbers, as they are used when buying things and when telling time, will be studied; in English there are many variations. Students will gain confidence in communicating about common things in everyday life.			
授業の概要 この授業の最大の目的は学生が自信を持って英語を話せるようになるという事です。学生は毎回、リスニング、ライティング、暗記、そしてプレゼンテーションする機会を与られます。教科書は使いませんので、学生は自主的にメモを取るようになります。前期では買い物や時間の表現に使う様々な数字を学習するなど、日常生活において英語で話す際の自信を培います。			
授業計画 第1回 Self-Introduction: Report; BV Listening Vocabulary; The Week/New Terms 第2回 BV 1 Quiz; Numbers and Dates; Weekend Report and Presentation 第3回 BV 2 Quiz; begin TIME lesson 第4回 BV 3 Quiz; Finish TIME lesson 第5回 BV 4 Quiz; TIME practice quiz 第6回 BV Final Quiz; TIME quiz 第7回 PRESENTATION video; discussion on giving presentations 第8回 Introduce MONEY; Base Ten discussion; Begin Coins 第9回 MONEY: Bills and Change 第10回 MONEY: Review 3- and 4-digit numbers; Begin WRITING/LISTENING 第11回 Finish MONEY lesson 第12回 MONEY practice quiz and review 第13回 MONEY quiz 第14回 MOVIE: Reward for hard study 第15回 A/AN Alphabet and Language activity (定期試験)			
履修上の注意 Active participation of students in class is essential. The use of a dictionary is required.			
参考書・参考資料等 The exam material will be based on subjects discussed in class.			
学生に対する評価 Student Evaluation The final assessment is based on attendance, active participation in class, and quizzes.			

授業科目名	英会話B	担当教員名	Randy Kay Checketts
授業科目区分	教養科目－外国語		
履修区分	選択科目	授業形態	演習
配当年次・学期	1・2年次後期	単位数	2単位
授業の到達目標及びテーマ The work this semester will build on the foundation of work covered in the 1st semester. Hopefully, there will be more volunteer Presentations. Weekly-written reports about Weekend Activities will continue. Because of approaching winter and cold weather, a number of students will have medical needs; they catch colds, etc.. So, a long look will be taken at various symptoms of illness and physical injury. Also, medicine needs and advice are discussed. This study requires an extensive vocabulary. The remainder of the semester will be used to discuss Names and Addresses, for use when traveling or writing letters. All of this study will have practical application.			
授業の概要 後期は前期の内容を基にした授業となり、学生のプレゼンテーションへの自主的参加を期待しています。週末についてのレポートは前期に引き続き毎週提出となります。冬に向かい風邪など体調を崩す季節に入るため、病気の症状や怪我、薬などについても話し合いますが、そのためには沢山の語彙学習が不可欠です。その他、将来の海外旅行や海外との手紙のやり取りのための、名前や住所の表示の仕方など、実用向きな内容を学習します。			
授業計画 第1回 Discuss Summer: Report; give Body-Part names 第2回 Begin Weekend; continue Body Parts lesson 第3回 Begin Presentations; continue Body Parts lesson 第4回 Continue Body Parts lesson 第5回 Practice Spelling quiz #1 (E/E); continue Body Parts lesson 第6回 Practice Spelling quiz #2 (E/E); continue Body Parts lesson 第7回 Practice Spelling quiz #3 (J/E); finish Body Parts lesson 第8回 Body Parts practice quiz (as review) 第9回 Body Parts quiz 第10回 Movie: Dennis the Menace; Report: childhood innocence 第11回 Santa Claus (30-minute video); give Crossword Puzzle 第12回 Discuss Crossword Puzzle on Christmas symbols 第13回 Begin Address lesson 第14回 Continue Address lesson 第15回 Review for Address quiz (定期試験)			
履修上の注意 Active participation of students in class is essential. The use of a dictionary is required.			
参考書・参考資料等 The exam material will be based on subjects discussed in class.			
学生に対する評価 Student Evaluation The final assessment is based on attendance, active participation in class, quizzes and a term-end exam.			

授業科目名	韓国語A	担当教員名	金 孝卿
授業科目区分	教養科目－外国語		
履修区分	選択科目	授業形態	講義
配当年次・学期	1・2年次前期	単位数	2単位
授業の到達目標及びテーマ 授業は、韓国語を学習したことのない初心者を対象とする。特に、「話す」会話能力を中心に進め、ハングルでの挨拶、学校や日常会話で使える基本的な表現と、楽しく話せる会話力を身に付けることを目標とする。			
授業の概要 授業は、講義形式だけではなく、なるべく相互活動で話し合いの形で進める。授業の内容は、基本的に教科書に沿って進めていくが、映像などを積極的に取り入れながら、教科書の内容を補って進行する。授業の進捗状況に合わせて、小テストを実施する。また、ハングルを文字や意味だけでなく、文字を形として遊ぶゲームを行う。			
授業計画 第1回 韓国について知る。 第2回 ハングル①/基本母音・複合母音 第3回 ハングル②/基本子音 第4回 ハングル③/パッチム 第5回 挨拶の言葉について 第6回 自己紹介について 第7回 これは何ですか。 第8回 コーヒーください。韓国式数字① 第9回 ～をください。韓国式数字② 第10回 何時ですか。 第11回 電話番号が何番ですか。中国式数字① 第12回 電話番号が何番ですか。中国式数字② 第13回 誕生日はいつですか。中国式数字③ 第14回 【場所】～に行きます。 第15回 【人】～がどこにいますか。			
履修上の注意 2～4回の時間に韓国語の文字を学習するので、受講する人は必ず出席すること。授業は1回完結が基本として、欠席した場合は補充がきかないので注意すること。			
テキスト 開講時に提示する。 必要に応じてプリントを配布する。			
参考書・参考資料等 適宜配布する			
学生に対する評価 授業態度 30%、期末テスト 70%とで、総合的に評価し、60点以上を単位認定要件とする。			

授業科目名	韓国語B	担当教員名	金 孝卿
授業科目区分	教養科目－外国語		
履修区分	選択科目	授業形態	講義
配当年次・学期	1・2年次後期	単位数	2単位
授業の到達目標及びテーマ この科目を終了時に次のことが出来ることを目標とする。 1. 韓国語能力試験初級の基本語彙が使える。 2. 韓国語Aで習った文型などの運用が出来、その応用が出来る。 3. 日常生活で韓国人と簡単なコミュニケーションができる。			
授業の概要 この授業は、韓国語Aの次の段階としての発展科目である。韓国語Aで習得した基本文型・語彙などを深化・応用させ、韓国語によるコミュニケーション能力を身に付ける。具体的には、韓国語の語学の面だけではなく、文化的背景なども積極的に多く取り入れ、文化を基盤とした韓国語の運用能力を高めることを目指す。授業の進捗状況に合わせて小テストを実施する。			
授業計画 第1回 韓国語の面白さ(発音の変化) 第2回 ソウルは、朝～時です。 第3回 【場所】で【行動】をします。 第4回 【場所】で【行動】をしますか。 第5回 動詞の現在形 第6回 動詞の過去形 第7回 動詞の否定形 第8回 移動の手段 第9回 命令・禁止の命令 第10回 【場所】はどこにあります。 第11回 【場所】はどこにありますか。 第12回 動詞の未来形 第13回 【目的】しに行きます。 第14回 【目的】しに行きますか。 第15回 まとめ 期末テスト			
履修上の注意 受講する人は最初の授業に必ず出席すること。			
テキスト 開講時に提示する。 必要に応じてプリントを配布する。			
参考書・参考資料等 適宜配布する			
学生に対する評価 授業態度 30%、小テスト 20%、期末テスト 50%とで、総合的に判断し、60点以上を単位認定要件とする。			

授業科目名	中国語A	担当教員名	陳 風
授業科目区分	教養科目－外国語		
履修区分	選択科目	授業形態	演習
配当年次・学期	2・3年次前期	単位数	2単位
授業の到達目標及びテーマ この科目を修了時に次の目標に到達することが可能である。 1 中国語の発音や声調について基本的な知識を持ち、かつ、正確に発音したり、聞き取ったりすることができる。 2 簡単な挨拶や自己紹介など、中国語の基本語彙や文型、文法を習得し、「聞く」、「話す」、「書く」という三つのレベルにおいて、それらを応用できる。			
授業の概要 この授業は、中国語を初めて学ぶ学生を想定した入門コースである。発音、声調、基礎語彙、基本文型などを学習し、中国語の基礎語学力を身につけることを目標とする。コミュニケーション力の養成を重視する観点から、「聞く」、「話す」、「書く」、「読む」の4つのスキルがバランス良く学べるように配慮しつつ、特に中国語の発音や声調などになるべく早く慣れてもらうことに重点が置かれる。			
授業計画 第1回 プロローグ A、B (発音・声調) 第2回 プロローグ C、D (発音・声調) 第3回 ①テスト (プロローグA-D) ②第1課 単語 本文 (朗読・文法説明) 第4回 第1課 プラクティス (書き取り・会話・作文) 第5回 第2課 単語 本文 (朗読・文法説明) 第6回 第2課 プラクティス (書き取り・会話・作文) 第7回 第3課 単語 本文 (朗読・文法説明) 第8回 第3課 プラクティス (書き取り・会話・作文) 第9回 ①テスト (第1課－第3課) ②第4課 単語 本文 (朗読・文法説明) 第10回 第4課 プラクティス (書き取り・会話・作文) 第11回 第5課 単語 本文 (朗読・文法説明) 第12回 第5課 プラクティス (書き取り・会話・作文) 第13回 第6課 単語 本文 (朗読・文法説明) 第14回 第6課 プラクティス (書き取り・会話・作文) 第15回 ①第6課 プラクティス (続き) ②テスト (第4課－第6課)			
授業時間外の学修方法と内容としては、1、毎回の授業の前に約30分程度、テキスト付属のCDを聴きながら発音や声調の予習をしておくこと、2、授業の後に既習の文法事項について約30分程度を使って復習すること、3、授業で配布した作文などの練習問題を、答え合わせをする次の授業までに終らせること (所要時間約1時間)。			
履修上の注意 上記とは別に課毎に30分程度の宿題があり、宿題は必ず期限までに提出すること。			
テキスト 『ともだち・朋友 トータル版』 朝日出版社 定価2625円 ISBN 978-4-255-45167-1			
参考書・参考資料等 特になし			
学生に対する評価 授業態度 (宿題を含む) 40%、 テスト 60%。			

授業科目名	中国語 B	担当教員名	陳 風
授業科目区分	教養科目－外国語		
履修区分	選択科目	授業形態	演習
配当年次・学期	2・3年次後期	単位数	2単位
授業の到達目標及びテーマ			
この科目を修了した時点で、次の目標に到達することが可能である。			
1 基本語彙400程度の使い方の習得。			
2 初級から中級レベルの基本文法（存在表現、可能表現、様態補語、方向補語、把構文など）の習得。			
3 限られた場面でのコミュニケーション。			
授業の概要			
この授業は、中国語Aの発展科目である。中国語Aで身につけた基礎的スキルや知識をもとに、中国語によるコミュニケーション力の向上を目的とする。具体的には、日常会話などにも必要な様々な文法知識、社会生活の様々な場面で使われる表現や語彙などを学習し、中国語応用力のステップアップを図る。			
授業計画			
第1回	第7課	単語・本文	(朗読・文法説明)
第2回	第7課	プラクティス	(書き取り・会話・作文)
第3回	第8課	単語・本文	(朗読・文法説明)
第4回	第8課	プラクティス	(書き取り・会話・作文)
第5回	第9課	単語・本文	(朗読・文法説明)
第6回	第9課	プラクティス	(書き取り・会話・作文)
第7回	第10課	単語・本文	(朗読・文法説明)
第8回	第10課	プラクティス	(書き取り・会話・作文)
第9回	①テスト(第7課—第10課) ② 第11課 単語・本文(朗読・文法)		
第10回	第11課	プラクティス	(書き取り・会話・作文)
第11回	第12課	単語・本文	(朗読・文法説明)
第12回	第12課	プラクティス	(書き取り・会話・作文)
第13回	第13課	単語・本文	(朗読・文法説明)
第14回	第13課	プラクティス	(書き取り・会話・作文)
第15回	①第13課プラクティス(続き) ②テスト(第11課—第13課)		
授業時間外の学修方法と内容としては、1、毎回の授業の前に約30分程度、テキスト付属のCDを聴きながら発音や声調の予習をしておくこと、2、授業の後に既習の文法事項について約30分程度を使って復習すること、3、授業で配布した作文などの練習問題を、答え合わせをする次の授業までに終らせること(所要時間約1時間)。			
履修上の注意			
中国語1を修了した学生が対象となる。上記とは別に課毎に30分程度の宿題があり、宿題は必ず期限までに提出すること。			
テキスト			
『ともだち・朋友 トータル版』			
朝日出版社 定価2625円 ISBN 978-4-255-45167-1			
参考書・参考資料等			
特になし			
学生に対する評価			
授業態度(宿題を含む)40%、 テスト60%。			

授業科目名	フランス語A	担当教員名	中田 俊介
授業科目区分	教養科目－外国語		
履修区分	選択科目	授業形態	演習
配当年次・学期	1年次後期	単位数	2単位
授業の到達目標及びテーマ フランス語を正確に、美しく発音できるようになる。 フランス語の綴りを正しく読み、書けるようになる。 主に現在時制を用いて言うことのできる日常的な基本表現が使えるようになる。 フランス語およびフランス文化についての関心・理解を深める。			
授業の概要 フランス語を初めて学ぼうとする者を対象とし、フランス語で聞き、話し、読み、書くための最も基本的なスキルを習得するためのクラスである。語彙は 300 語程度、実用フランス語技能検定試験 5 級準備レベルの運用力を身につける。言語・文化に親しむために歌を歌ったり、詩を朗読したりといった活動も行う。 授業時間外の学修については、都度の授業の復習および次回授業での小テストの準備のために学修内容を指示またはプリントの配布を行う。			
授業計画 第 1 回 フランス語の音 1 第 2 回 フランス語の音 2 ・ つづり 1 ・ あいさつ 第 3 回 フランス語の音 3 ・ つづり 1 ・ 車を運転しますか (2 語幹動詞) 第 4 回 つづり 2 ・ よく眠れますか (2 語幹動詞) ・ 第 5 回 つづり 3 ・ 出身はどこですか (3 語幹動詞) 第 6 回 1～5 回までの復習 第 7 回 歌はうまいですか (1 語幹動詞) 第 8 回 何をするのが好きですか (1 語幹動詞) 第 9 回 日本人ですか (不規則動詞 être) 第 10 回 車を持っていますか (不規則動詞 avoir) 第 11 回 これは何ですか (不定冠詞) 第 12 回 これはあなたのペンですか (定冠詞) 第 13 回 これは誰のですか (強勢形代名詞) 第 14 回 7～13 回までの復習 第 15 回 全体復習 <期末テスト>			
履修上の注意 入門とはいえ、フランス語を使えるようにするためのクラスなので、普段の授業参加はもちろん、授業時間以外での継続的な学習が不可欠であり、その覚悟で臨むこと。			
テキスト 『フランス語話す聞くかんたん入門書』 (池田書店, 2016 年, 1404 円)			
参考書・参考資料等 授業中に指示・配布する。			
学生に対する評価 授業態度 (宿題を含む) 20%、小テスト 40%、期末テスト 40%。			

授業科目名	フランス語B	担当教員名	中田 俊介
授業科目区分	教養科目－外国語		
履修区分	選択科目	授業形態	演習
配当年次・学期	2年次前期	単位数	2単位
授業の到達目標及びテーマ フランス語Aで学んだ正しい発音、綴りを正確に読み書きする力を確実なものにする。 に現在時制に加え、過去形や未来形をも用いて、フランス語Aよりも幅広い表現が使えるようになる。 フランス語およびフランス文化についての関心・理解を深める。			
授業の概要 フランス語Aで学んだことを土台に、話し、読み、書くための基本的なスキルを引き続き習得するためのクラスである。語彙はフランス語1で学んだものを確実にしつつ新たに200語程度、実用フランス語技能検定試験5級に合格できるレベルの運用力を身につける。言語・文化に親しむために歌を歌ったり、詩を朗読したりといった活動も行う。 授業時間外の学修については、都度の授業の復習および次回授業での小テストの準備のために学修内容を指示またはプリントの配布を行う。			
授業計画 第1回 フランス語Aの復習① 第2回 フランス語Aの復習② 第3回 フランス語Aの復習③ 第4回 これは誰のですか（所有形容詞） 第5回 ワインを飲みますか（部分冠詞） 第6回 チーズを食べたいですか・何をしたいですか（準動詞 vouloir） 第7回 1～6回までの復習 第8回 来年パリに行きますか・今日展覧会に行きますか（動詞 aller・縮約） 第9回 今週末は何をするつもりですか（近接未来） 第10回 彼を知っていますか（直接目的語代名詞） 第11回 私にその本を貸してくれませんか（間接目的語代名詞） 第12回 お昼は何を食べましたか（完了過去①） 第13回 昨日美術館に行きましたか（完了過去②） 第14回 8～13回までの復習 第15回 全体復習 <期末テスト>			
履修上の注意 フランス語A同様、フランス語を使えるようにするためのクラスなので、普段の授業参加はもちろん、授業時間以外での継続的な学習が不可欠であり、その覚悟で臨むこと。			
テキスト 『フランス語話す聞くかんたん入門書』（池田書店、2016年、1404円）			
参考書・参考資料等 授業中に指示・配布する。			
学生に対する評価 授業態度（宿題を含む）20%、小テスト40%、期末テスト40%。			

授業科目名	プログラミング入門	担当教員名	野村 松信
授業科目区分	教養科目－情報科目		
履修区分	選択科目	授業形態	講義
配当年次・学期	2・3年次前期	単位数	2単位
授業の到達目標及びテーマ			
<p>プログラミング言語を習得することは、ソフトウェアを単に使用する立場から、コンピュータで何ができるのか、なぜできるのか、その仕組みを深く理解することになる。そのために、オブジェクト指向プログラミング言語の一つである「Java」の基本的文法、およびオブジェクト指向プログラミングの重要な概念であるクラスやオブジェクトの基本的機能について学習する。</p>			
授業の概要			
<p>オブジェクト指向プログラミング言語のひとつであるJava言語のプログラミングを通じ、コンピュータソフトウェアの動作原理を理解し、簡単なプログラムを作成する能力を身につける。そして、簡単な図形描画やゲームプログラミングのための基礎的知識、アルゴリズムについて紹介する。</p> <p>具体的には、プログラミング言語の基本的文法である変数、演算子、分岐処理、繰り返し処理、配列について学習し、オブジェクト指向プログラミングの重要な概念であるクラスの基本、クラスの機能や利用方法についても学ぶ。さらに、アプレット (Applet) を利用しての図形描画等についても紹介する。</p>			
授業計画			
<p>第1回 ガイダンス・プログラム作成から実行までの手順 第2回 Javaの基本(画面への出力、文字と数値) 第3回 変数のしくみ 第4回 式と演算子 第5回 分岐処理 (if文、switch文、論理演算子) 第6回 繰り返し処理 (for文、while文、do while文) 第7回 配列のしくみ 第8回 Javaアプレットの基本 第9回 いろいろなアプレット(1) 第10回 いろいろなアプレット(2) 第11回 クラスの基本(クラスとは、オブジェクトの作成等) 第12回 クラスの機能(アクセス制限、オーバーロード、コンストラクタ) 第13回 クラスの利用(クラスライブラリ、クラス型変数等) 第14回 新しいクラス(継承、オーバーライド等) 第15回 特殊なクラス(抽象クラス、インターフェイス等) (定期試験)</p>			
履修上の注意			
講義の理解を深めるため、「プログラミング演習基礎」も併せて履修することが望ましい。			
テキスト			
「やさしいJava」高橋著 (SoftBank Creative)			
参考書・参考資料等			
必要に応じて授業中に参考資料・プリントを配布する。			
学生に対する評価			
授業態度 20%、期末試験 80%で評価			

授業科目名	プログラミング演習基礎	担当教員名	野村 松信
授業科目区分	教養科目－情報科目		
履修区分	選択科目	授業形態	演習
配当年次・学期	2・3年次前期	単位数	2単位
授業の到達目標及びテーマ オブジェクト指向プログラミング言語の一つである Java 言語のプログラミングを通じ、コンピュータソフトウェアの動作原理を理解し、簡単なプログラムを作成する能力を身につける。また、簡単な図形描画やゲームプログラミングのための基礎的知識、アルゴリズムについて紹介する。			
授業の概要 数多くの例題を実際にコーディング作業からデバック作業までを体験し、プログラミング言語Javaの基本的文法について身につける。また、オブジェクト指向プログラミングの重要な概念であるクラスの基本、クラスの機能や利用方法について、具体的な例題を演習する。さらに、アプレット（Applet）を利用した図形描画方法等を紹介し、オリジナルの作品（プログラム）の作成を行う。			
授業計画 第1回 ガイダンス・プログラム作成から実行までの手順 第2回 Java の基本（画面への出力、文字と数値） 第3回 変数のしくみ 第4回 式と演算子 第5回 分岐処理（if 文、switch 文、論理演算子） 第6回 繰り返し処理（for 文、while 文、do while 文） 第7回 配列のしくみ 第8回 Java アプレットの基本 第9回 いろいろなアプレット（1） 第10回 いろいろなアプレット（2） 第11回 クラスの基本（クラスとは、オブジェクトの作成等） 第12回 クラスの機能（アクセス制限、オーバーロード、コンストラクタ） 第13回 クラスの利用（クラスライブラリ、クラス型変数等） 第14回 新しいクラス（継承、オーバーライド等） 第15回 特殊なクラス（抽象クラス、インターフェイス等）			
履修上の注意 「プログラミング入門」も併せて履修することが望ましい。 なお、理解を深めるため、毎回の授業後に課題を課します。			
テキスト 「やさしい Java」高橋著（SoftBank Creative）			
参考書・参考資料等 必要に応じて授業中に参考資料・プリントを配布する。			
学生に対する評価 授業態度 20%、課題点 80%で評価			

授業科目名	CGプログラミング	担当教員名	野村 松信
授業科目区分	教養科目－情報科目		
履修区分	選択科目	授業形態	演習
配当年次・学期	2・3年次後期	単位数	2単位
授業の到達目標及びテーマ			
<p>プログラミング言語について基礎的知識を持った学習者を対象にした授業である。プログラミングの様々な手法を利用し、新しい表現を実現したいと考えている学生を対象とし、図形描画・画像処理・アニメーション・インタラクション処理などに関する基本的なプログラミング技術およびアルゴリズムを習得する。</p>			
授業の概要			
<p>「Processing」は、プログラミング初級者やアーティストに向けたプログラミング言語/環境である。はじめに、図形描画やキャラクターの描画方法を紹介する。次に、様々な種類のデータを扱う手法、アニメーション、インタラクティブ作品の作成方法や画像処理について紹介する。具体的には、変数・繰り返し処理・分岐処理を用いた図形描画処理、マウスやキーボード操作に反応するインタラクティブな作品、3D作品の基本的な作成方法などを紹介する。さらに、情報の視覚化に関する基本的なテクニックなどを紹介する。</p>			
授業計画			
第1回 ガイダンス・プログラミング言語「Processing」の基本操作			
第2回 2次元グラフィックの基礎			
第3回 様々なデータの扱い方（1）			
第4回 様々なデータの扱い方（2）			
第5回 アニメーションの手法			
第6回 インタラクティブ手法			
第7回 キャラクターの制御手法			
第8回 オブジェクトの考え方			
第9回 パターンアニメーション			
第10回 座標変換と3次元空間の表現方法			
第11回 「Processing」による課題作成（1）			
第12回 画像処理の基本テクニック（1）			
第13回 画像処理の基本テクニック（2）			
第14回 数値計算と表現			
第15回 「Processing」による課題作成（2）			
履修上の注意			
<p>「プログラミング入門」、「プログラミング演習基礎」の単位を修得しているか、もしくはそれと同等のスキルを有すること。毎回の講義の終了後には、課題を課します。</p>			
テキスト			
「Processing アニメーションプログラミング入門」田中孝太郎著（技術評論社）			
参考書・参考資料等			
<p>参考書「Processing ビジュアルデザイナーとアーティストのためのプログラミング入門」ベン・フライ、ケイシー・リース著（BNN 新社）</p> <p>また、必要に応じて授業中に参考資料・プリントを配布する。</p>			
学生に対する評価			
授業態度 20%、課題 80%で評価			

授業科目名	情報数学入門	担当教員名	野村 松信
授業科目区分	教養科目-情報科目		
履修区分	選択科目	授業形態	講義
配当年次・学期	2・3年次後期	単位数	2単位
授業の到達目標及びテーマ <p>情報処理技術の背景にある原理やその基礎となる数学的知識を身につける。具体的には、論理数学、線形代数、数値表現の基礎的知識を習得する。</p>			
授業の概要 <p>論理や集合の概念の理解は、ソフトウェア分野への応用、プログラム言語やデータベースなどの学習に役立ち、また、線形代数のベクトルや行列の知識は、主に図形や画像処理の情報処理技術の理解に役立つ。</p> <p>論理数学では、論理演算と集合演算の共通性に着目しつつ、ブール代数の基本を学ぶ。線形代数のベクトルや行列では、CADやCG（コンピュータグラフィック）の図形の計量や表示、座標変換方法を教授する。数値表現では、2進数や浮動小数点などコンピュータの数表現について体系的に学び、さらに、数値計算における誤差の評価について教授する。</p>			
授業計画 第 1 回 ガイダンス・論理数学（1）命題論理 第 2 回 論理数学（2）論理演算 第 3 回 論理数学（3）集合とは・集合演算 1 第 4 回 論理数学（4）集合演算 2 第 5 回 平面ベクトル（1）ベクトルとその演算 第 6 回 平面ベクトル（2）ベクトルの成分表示 第 7 回 平面ベクトル（3）ベクトルの内積 第 8 回 空間ベクトル（1）空間のベクトル 第 9 回 空間ベクトル（2）ベクトルの内積・外積 第 10 回 空間ベクトル（3）位置ベクトル 第 11 回 行列（1）行列とその演算 第 12 回 行列（2）行列の積 第 13 回 行列（3）逆行列 第 14 回 行列（4）平面の線形変換 第 15 回 数値表現と誤差 （定期試験）			
履修上の注意			
テキスト 「数学入門 2」 桑田・森田共著（サイエンス社）			
参考書・参考資料等 必要に応じて授業中に参考資料・プリントを配布する。			
学生に対する評価 授業態度20%、小テスト40%、期末試験40%で評価 （※各講義の最後に小テストを実施し、理解度を確認します。）			

授業科目名	スポーツと健康 1	担当教員名	佐藤 靖
授業科目区分	教養科目－保健体育		
履修区分	選択科目	授業形態	実習・講義
配当年次・学期	1・2年次前期	単位数	1単位
授業の到達目標及びテーマ 到達目標：様々なスポーツの運動学習を通して、生涯にわたってスポーツを生活のなかに位置づけ、明るく健康的な人生を送るための基礎となる知識と技能を身につける。具体的には次のとおり。 (1) 基礎的なゲームを行うことができる。 (2) 基礎的なルールを守っている。 (3) スポーツに関する知識と基礎的な運動技能を身につけている			
授業の概要 講義10時間、実技を20時間行う。特に実技はスポーツ種目の選択に基づいて行う			
授業計画 第1回：ガイダンス，種目選択，受講カードの記入。 第2回：講義「スポーツの分類論」 第3回：講義「直立二足歩行の現代的問題」 第4回：実技，テニス，ピンポンの基礎技能の習得とルールの理解 第5回：実技，ピンポン，バドミンントンの基礎技能の習得とルールの理解 第6回：実技，バドミンントン，テニスの基礎技能の習得とルールの理解 第7回：実技，テニス，ピンポンのルールの理解と簡易ゲーム 第8回：実技，テニス，バドミンントンのルールの理解と簡易ゲーム 第9回：実技，テニス，ピンポンの発展技能の習得とルールの理解 第10回：実技，ピンポン，バドミンントンの発展技能の習得とルールの理解 第11回：実技，バドミンントン，テニスの発展技能の習得とルールの理解 第12回：実技，テニス，ピンポンの正規のゲーム 第13回：実技，テニス，バドミンントンの正規のゲーム 第14回：講義「動きかたを身につけるといこと」 第15回：まとめ			
履修上の注意			
テキスト 特になし			
参考書・参考資料等 プリントの配付			
学生に対する評価 スキルテスト (50%)：各スポーツ種目について授業時に示す運動技能の到達目標に準拠する。 ゲームの観察 (30%)：ゲームを行うことができるか、ルールを守っているか。 受講態度 (20%)：積極的に練習やゲームに参加し、役割を果たしているか。			

授業科目名	スポーツと健康 2	担当教員名	佐藤 靖
授業科目区分	教養科目－保健体育		
履修区分	選択科目	授業形態	実習・講義
配当年次・学期	1・2年次後期	単位数	1単位
授業の到達目標及びテーマ 到達目標：様々なスポーツの運動学習に主体的に取り組み、生涯にわたってスポーツを生活のなかに確実に位置づけ、明るく健康的な人生を創造するための豊かな知識と技能を身につけることを目的とする。具体的には次のとおり。 (1) ゲームを主体的に行うことができる。 (2) ルールを積極的に守り、仲間と協力してゲームを行うことができる。 (3) スポーツに関する豊かな知識と運動技能を確実に身につけている。			
授業の概要 講義10時間、実技を20時間行う。特に実技はスポーツ種目の選択に基づいて行う。			
授業計画 第1回：ガイダンス、種目選択、受講カードの記入。 第2回：実技、バレーボールの基礎技能の習得とルールの理解 第3回：実技、バレーボールの基礎技能の習得とルールの理解、および簡易ゲーム 第4回：実技、バレーボールの発展技能の習得とルールの理解 第5回：実技、バレーボールの発展技能の習得とルールの理解、および正規のゲーム 第6回：実技、バスケットボールの基礎技能の習得とルールの理解 第7回：実技、バスケットボールの基礎技能の習得とルールの理解、および簡易ゲーム 第8回：実技、バスケットボールの発展技能の習得とルールの理解 第9回：実技、バスケットボールの発展技能の習得とルールの理解、および正規のゲーム 第10回：実技、トーナメント戦によるゲームと競技運営法 第11回：実技、リーグ戦によるゲームと競技運営法 第12回：講義「球技の分類論」 第13回：講義「運動発達論」 第14回：講義「動きかたを伝えるということ」 第15回：まとめ			
履修上の注意			
テキスト 特になし			
参考書・参考資料等 プリントの配付			
学生に対する評価 スキルテスト (50%)：各スポーツ種目について授業時に示す運動技能の到達目標に準拠する。 ゲームの観察 (30%)：ゲームを行うことができるか、ルールを守っているか。 受講態度 (20%)：積極的に練習やゲームに参加し、役割を果たしているか。			